

受療者医療保険学術連合会とは

➤ 本会の主旨と概要

医療分野を取り巻く経済基調が厳しさを増すなか、医療者のみならず受療者（家族含）には、社会全体に対する医療分野の意義を理解し、医療保険制度における各種の歪みを是正するなど、時代の趨勢にそくした必要な行動（適切な受益と負担など）を起こすことが求められてきている。

そこで、受療者の意識・思いが反映されるアウトカム指標などを用いることで、医療が有する社会経済的な価値（Value of medicine）を明らかにし、医療技術などの適正な診療報酬や使用条件の姿を論じつつ、その持続的な発展や普及を促すことを目指した団体を立ち上げる。

本会の特徴は、受療者と医療者が一緒に医療保険制度や医療経済学などについて洞察を深めながら、医療システムの在り方や目指すべき方向性を探求して、臨床現場の自助努力を促すとともに、最終負担者である国民などに医療の価値を訴求することにある。

本会には、発起人会（平成 24 年 6 月 4 日）経て、現在、がん、心臓、腎臓、アレルギー、糖尿、および眼、呼吸器、脊椎、神経などの横断的な疾病領域について、受療者系組織が 25 団体（総会員数約 12 万人、各団体調べ）、医療者（世話人）が 30 名弱参加する。

主な活動としては、限られた医療資源の有効活用を標榜しつつ、臨床現場がかいた汗（成果）に見合う対価の設定や、社会的に意義の高い診療がより適切に報酬を設定される仕組み（理論やエビデンスの整理）について検討を進めることが挙げられる。

具体的には、当面、下記の 3 つのテーマを推進する予定である。

➤ 当面の活動テーマ案

- ・受療者自身が医療保険や医療経済を理解し咀嚼する（関係者が領域を超えて相互の病態や診療技術を理解）
- ・余命の重みや健康の意義を学術的に説明していく（HRQOL 等の指標の重みづけを患者や国民目線などからスコア化）
- ・受益と負担など医療保険財源についても熟考する（社会や受療者にとり意義のあるものへ資源配分を促す）

以上

平成 24 年 9 月 1 日